

西諸県地域の普及活動

令和7年1月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 1月期子牛郡品評会が開催

14日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和7年1月期子牛郡品評会が開催されました。

1月18日から20日に開催される1月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た40頭が出品され、審査の結果、優等賞に7頭、壺等賞に20頭、式等賞に8頭が選ばれました。なお、優等賞首席は小林市の小林秀峰高校出品の「えい」号（桃白鵬－宗守富士－美穂国）、2席は小林市の寛春彦さん出品の「あやか41」号（秀百合久－耕富士－美穂国）、3席は小林市の立山健二さん出品の「ひかる1444」号（二刀流－宗守富士－美穂国）が受賞されました。受賞牛は、発育良好で体積豊か、輪郭鮮明で骨じまりに優れていたとの講評でした。



【受賞したえい号】

2) 子牛初競りが開催

18日から20日までの3日間、小林地域家畜市場において、子牛セリ市が開催されました。初日のセリ市開始前には、今年の市場の盛況を祈願し鏡開きが行われました。

来賓として出席された河野知事が、出品者に代わって引き出しを行った出品牛には約80万円のせり値が付くなど、盛況な子牛セリ市となりました。



【初日の鏡開きの様子】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

8日に、えびの市いちご団地の研修生1名及び新規でえびの市で就農を検討する1組に対して就農相談を行いました。

えびの市いちご団地の研修生については、市、JAの担当者と就農に向けた費用等の諸条件の整理を行いながら、計画について協議を行いました。また、新規の方については、生産技術の修得や就農開始に係る農業経営等の概要について説明や情報提供を行い、引き続き検討をいただくこととなりました。

※就農相談対応 2者2回

(内訳 えびの市：施設野菜1者、品目未定1者)

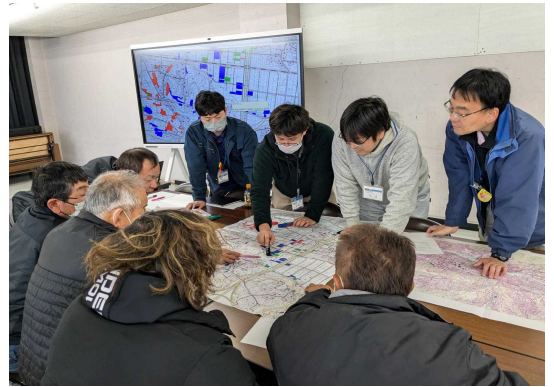
(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 農地の集積・集約に関する意見交換会を開催

17日に、水稻を主業とする農業法人等の共通課題の一つである「農地の集積・集約」の解決に向けた意見交換会を開催しました。内容は、えびの市の担当者ワーキンググループで作成した営農地図（生産者のほ場を見える化した地図）を元に対象者3名の農地交換に関する話し合いを行いました。

参加した生産者は日頃から作業効率化に課題意識を感じていると同時に面積拡大の意向を示していたため農地交換及び集約化に前向きな反応が見られました。

今後は農地交換に係る諸条件の確認が必要になりますが、今回の事例をモデル的な取組として、他地域に波及していきたいと思えます。



【生産者達と共に農地の集積・集約について協議】

2) 人材確保に関する研修会を開催

15日に、小林市中央体育館で、西諸農業改良普及事業推進協議会主催の「多様な人材確保に関する研修会」を開催し、農業者11名と関係機関19名が参加しました。

人材確保の課題は、関係機関だけでなく生産者とも協力し解決していく必要があることから、水田営農経営体や集落営農法人等も参集し、行政と連携した人材確保や短期雇用の活用について新福青果の栗原氏より講演してもらいました。また、外国人材活用の情報提供もおこないました。生産者より短期や外国人の雇用は敷居が高く感じていたが、研修を受けて印象が変わった等意見が聞かれました。今後も人材確保に向けた様々な支援を行っていききたいと思えます。



【講師の話に熱心に聴き入る参加者たち】

3) 令和7年産小麦の巡回による生育状況確認

20日に、小林市において、11月下旬に播種した小麦の生育状況の確認を行いました。

この小麦は、小林市内のお菓子で使われるものです。

現在、分けつ期を迎えていますが、1月の気温は平年並みで、降水量が平年より少なかったため湿害等の影響もなく、1回目の麦踏みも終了し、順調に生育しています。

今後も除草対策や排水対策指導を行い、収量・品質が確保できるよう定期的な巡回を行っていききたいと思えます。



【分けつ期の小麦】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) JA こばやし甘藷部会が第67回 宮崎日日新聞 農業技術賞を受賞

17日に、宮日会館（宮崎市）において、第67回 宮崎日日新聞 農業技術賞贈呈式が行われ、西諸県地区からは、「JA こばやし甘藷部会」（部会長 石川 文男氏）が受賞しました。

今回の受賞は、これまで部会員とJAが一丸となって、サツマイモ基腐病（以下、基腐病）の蔓延防止に向けた各種対策を行った結果、西諸県地区が基腐病の発生がほぼ無い「優良産地」を維持していることなどが高く評価されたことによります。

今後も、更なる産地拡大に向けた対策を関係機関と連携して行って参ります。



【受賞者挨拶（石川部会長）】

2) 種用さといもの生産振興に関する協議

24日に、普及センターにおいて、関係機関参集のもと管内のさといもの生産振興に関する協議を行いました。

管内の種用さといもの生産は、生産者の高齢化、疫病の発生による生産意欲の減退などもあり、減少をしている状況があります。

JA こばやし採種さといも部会の状況、今後の里芋生産（早生、中生）の見通しを協議し、新規生産者の掘り起こし、JA こばやし本体による生産体制の整備について協議し、次作以降のさといもの生産振興方向を確認しました。

今後も、産地の維持拡大に向けた対策を関係機関と連携して行って参ります。

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) えびの市のいちご農家の経営支援を実施

20日に、モデル農家になっていただいているいちご農家と経営検討会を開催しました。毎月1回開催しているこの検討会では、月毎の作業スケジュールや実績、栽培状況の確認を行います。今回の検討会では、新たに設置するハウスの準備状況やいちごの栽培に関する聞き取りを行い、来月以降に向けた取組を確認しました。

来月以降も引き続き、JAと連携した若手農家の支援を行っていきます。



【モデル農家との検討会】

2) JA えびの市いちご団地講習会（第7回）

28日に、えびの市いちご団地において、研修生2名を対象とした講習会が開催されました。普及センターからは、これまでの研修のふり返りと、2月の栽培のポイントを説明しました。研修生からは、今後収穫量が増加していく中で株の状態等を見極めながら施肥やかん水管理を変えていく考え方等について積極的に質問がありました。今後いちごは収穫のピークを迎えますので、収量安定確保に向けて支援を行っていきます。

3) みやざきデータ駆動型農業推進大会の参加

27日に、JA・AZMホールにて標記推進大会が開催されました。県では促成きゅうりと促成ピーマンを対象に、収量向上を目的とした環境データの活用に関する取組を進めています。

本大会には当地域からは6名の生産者が参加し、県外の篤農家の講演やデータ活用の先進事例などを聞くことができました。県域でのデータ活用の取組は始まったばかりのため、当地域でもその技術がしっかり定着していくよう支援を続けていきます。



【推進大会に参加する生産者】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 他産地のぶどう若手生産者と合同研修会を開催

15日に、小林市のぶどう若手生産者グループのぐれ〜ぷと、JAみやざき尾鈴地区のぶどう若手生産者グループのOsuzuVinesの合同研修会が尾鈴地区で行われ、当地域からは生産者約30名、関係機関5名が参加しました。研修会では、総合農業試験場果樹部担当者から先進技術の説明、西諸県・児湯両普及センターからは着色促進剤の展示は結果を紹介しました。園地見学後は情報交換会が行われ、活発に意見交換が行われました。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【熱心に話を聞くぶどう生産者】

2) JAこばやしマンゴー部会全体研修会

31日に、JAこばやしマンゴー部会全体研修会が行われ、部会員約30名、関係機関3名が参加しました。研修会では、JA担当者から生育概況や栽培管理等について説明があり、普及センターからは県果樹共進会の結果等について報告しました。特にCO₂施用について、生産者の関心が高く、熱心に聞いている様子でした。研修会後は情報交換会が開催され、活発な意見交換が行われました。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【研修会で質問をする生産者】

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) キクの農家の経営支援を実施

9日及び24日に、小林市管内のキク農家との経営検討会及び勉強会を行いました。

この農家は、モデル農家になっていただいていることもあり、過去3年間の経営の動向や目標に向けて実施した内容、今後の方向性などを検討しました。規模拡大に向けた投資を行いながら、農家自ら経営の見直しなどを行っていることから、年々安定した経営となっています。普及センターからは、2L率向上に向けた有害センチュウ対策などの検討結果や他農家の事例などを説明しました。

また、勉強会では、連作を行う中での肥料を活かす土づくりについて農業経営課長より説明しました。

今後、地域の花き農家のリーダー的な存在の方の支援に引き続き力をいれて取り組んでいきます。



【モデル農家との検討会】



【モデル農家との勉強会】

2) えびの市管内におけるラナンキュラス球根生産説明会を開催

14日に、えびの市管内のラナンキュラスの球根生産ほ場にて、球根農家1戸、球根生産に興味ある農家3戸、関係機関4名に対し、ラナンキュラスの球根生産について説明を行いました。

適切な管理が可能である農家に対し、球根生産の概要を説明し、実際に球根を栽培しているほ場において、農家同士の意見交換を実施しました。

一昨年より、管内でラナンキュラス球根生産を開始しましたが、優良な球根を安定的に生産するためには、小規模での球根生産者を徐々に増やしていく必要があります。引き続き、種苗会社や関係機関等と連携しながら、ラナンキュラスの優良な球根の生産を進めていきます。



【農家に対する球根生産の説明】

3) 高原町花卉部会の定例会が開催

23日に、高原町管内においてはほ場巡回及び定例会が開催され、生産者4名、関係機関4名が参加しました。JAから情勢報告が行われ、3月彼岸出荷の状況について説明されました。普及センターからは、土壌消毒と残さ分解について説明を行いました。

引き続き関係機関と協力し、部会の活動を中心に支援していきます。



【部会長の言葉を聞く農家と関係機関】

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1) 西諸県地区普通作技術員会が福岡県の研究機関などを視察

30～31日に、営振協普通作部会13名で、農研機構、穀物検定協会、大規模水田営農経営体への視察研修を行いました。

- ① 農研機構: 水稻や麦の品種開発や栽培技術について学びました。
- ② 穀物検定協会: 食味官能審査の方法や食味ランキングの決め方について学び、当地域で取り入れられる内容や工程について検討しました。
- ③ 福岡県の大規模水田営農経営体: 現地ほ場や機械設備を回りながら、経営体に取り組んでいる栽培方法や経営管理について活発な意見交換が行われました。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【経営体の機械設備の見学する参加者】

2) JA こばやし酪農青年部の経営研修会を開催

23日に、JA こばやしの酪農青年部を対象に経営研修会を開催しました。内容は『農業経営の基礎』に関することで、経営の見える化や経営者の意識を持つことの大切さ、青色申告決算書の見方について主に研修を行いました。

受講生は自身の決算書を持ち込んで積極的な姿勢で研修に参加しており、これからは経営のこともしっかり勉強していかなければと参加者の反応があり、経営管理の重要性について意識ができたようです。



【農業経営の基礎についての講義】

今後も引き続き生産者に対して継続した経営支援を行えるよう損益分岐点分析等の、より実践的な研修を計画していく予定です。

3) NOSAIと普及センターで肉用牛に関する研修会を共同で開催

21日に、JA こばやし本所大研修室にて、NOSAIと普及センターの共同研修会を開催し、JA こばやし管内の生産者120名が参加しました。

講習会は、ムダを省いて収益確保をテーマに、普及センターからは良質な粗飼料確保のためのポイントや土作りの重要性を説明し、NOSAIからは繁殖管理におけるムダを省く上でのポイントの説明がなされました。

さらに、2月4日は、JA えびの市で同様の研修会の開催を予定しております。今後も関係機関と連携を図りながら生産者への支援を行っていきます。



【講習会の様子】

4) 促成きゅうりにおける環境データ活用先進地視察（愛知県）

29 日及び 30 日に、促成きゅうりにおける環境データ活用の先進地である愛知県の視察を行い、JA、振興局、普及センターの職員が参加しました。愛知県では、生産者と JA、県が連携し、出荷予測のシステム構築や環境データを活用した栽培に先進的に取り組んでいます。現地での生産者や指導員との意見交換では学ぶことが多く、有意義な視察となりました。

今回学んだことを現場で活用できるよう指導に活かしていきます。



【選果機を視察する指導員】

5) 西諸県地区果樹技術員会第6 回定例会

8 日に、西諸県地区果樹技術員会を開催しました。会議では、各品目の生育概況報告や、事業説明、試験研究要望の検討などを行いました。また、きんかんの全戸果実調査も行い、7 月以降の高温です上がり果がかなり多く、遮光の重要性を再認識し、令和 7 年産では生産者への呼びかけを徹底することとなりました。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【キンカン果実調査を行う技術員】

6) 西諸県地区果樹技術員会の産地維持・拡大に関する視察研修 （日向市・大分県）

22～23 日に、西諸県地区果樹技術員会で日向市・大分県視察を開催しました。視察先では、果樹の新改植面積を増加させるために、行政が行った基盤整備や参入支援の仕方を学び、西諸県地区で実施できることを検討しました。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【大分県職員による取組の説明】

7) キクの定植機の実演への参加

8 日に、総合農業試験場花き部にて、キクの定植機の実演が行われ、管内のキク農家 2 名、関係機関 2 名と参加しました。

機械メーカーによる実演で、デモ機はタマネギ用でしたが、2 条植えの状況を実際に見ることができました。露地のキクでは定植機が導入されていますが、植栽様式が施設では異なること、セル苗での定植になることなど、すぐには導入できない感触ではありましたが、夏場の高温時期などを中心に省力化が可能な部分もあり、今後の動向が楽しみです。



【メーカーからの説明を聞く参加者】

8) 西諸県地区花き技術員会第6 回定例会の開催

20 日に、高原町にて第 6 回定例会を開催し、関係機関 8 名が参加しました。

現地視察では、高原町管内のランシキラスほ場を視察し、ほ場の状態と農家との意見交換を行いました。今年度は、定植後の高温や曇雨天などの影響により、初期生育が悪く、1 月に入ってやっと開花が始まった状況となり、例年より出荷量が減る見込みとなっています。

室内検討では、来年度の営振協展示ほ計画や事業を活用した大苗育苗の実証、花き展示会の検討などを行いました。

関係機関や農家と情報交換を密に行うことで、技術員会の活発な活動につなげていきたいとします。



【室内検討での意見交換】

9) グリーンな栽培体系に対する香川県からの視察対応

30 日に、小林市管内のキク農家ほ場にて、グリーンな栽培体系への転換に係る花き先進地視察研修として、香川県の職員ら 6 名が来られ、キク農家と対応しました。

普及センターからは、西諸県花きとキク農家の概要を説明し、キク農家からは栽培方法や経営改善に向けた取組等について説明いただきました。

主に土づくりや防除について熱心に質問されており、キク農家の様々な取組に関心があるようでした。

今回のキクに加え、香川県ではランシキラス生産という西諸県の花きと似た構成であり、活発に意見交換を行うことができました。



【キク農家の説明を聞く香川県職員】

10) 西諸県地区女性農業者サポート 協議会で経営の研修会を開催

21 日、普及センターにおいて、でこんの花（西諸県地区農村女性アドバイザー会）と西諸県地区女性農業者サポート協議会が共催で研修会を開催し、女性農業者集団の代表者及び関係機関が 20 名参加しました。

講師には、外村昭徳事務所の外村昭徳氏を招き、青色申告制度の仕組みや帳簿作成の重要性について学びました。また、申告や課税の仕組み、法人化のメリット、さらには簿記記帳に取り組むことの意義など、経営者にとって考えさせる有意義な研修となり、参加者からは多くの質問が出ていました。



【講義を聴き経営を考える参加者】

※この報告書では、JA みやざきこぼやし地区本部を「JA こぼやし地区」、
JA みやざきえびの市地区本部を「JA えびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。